

## 第2回庄内町社会教育委員会 会議録

- 1 開催日時 平成25年7月12日(金)13時30分～16時25分
- 2 開催場所 余目第三公民館
- 3 出席委員 斎藤良一、佐藤富美、富樫良秋、佐藤啓子、石井玲子、奥山俊昭、志田征子  
岩浪勝雄、志田啓子、廣田静吾、矢嶋玲子、菱谷光雄
- 4 欠席委員 秋葉俊一、阿部真一
- 5 事務局 教育長、社会教育課長、社会教育課長補佐

.....  
進行：社会教育課長

- 1 開 会 社会教育課長 (13:30)
- 2 議長あいさつ  
教育長あいさつ
- 3 議事録署名委員  
奥山 俊昭      志田 征子
- 4 協議事項
  - (1) 庄内町青少年育成プログラムの見直しについて
  - (2) 平成25年度山形県社会教育連絡協議会市町村研修等支援事業について
  - (3) 第4回山形県社会教育研究大会の開催について
  - (4) その他

### 協 議

- (1) 庄内町青少年育成プログラムの見直しについて

《資料1・2・3により、事務局説明》

【議 長】 見直し案の5基本方向に重点をおいて、説明がありましたがいかがでしょうか。

【委 員】 6具体的施策の推進については、前回、5基本方向で詳しく記載されているので削除したいとありましたが、今回は再度、取り上げたようですが理由はありますか。

【事務局】 平成19年策定のプログラム中、6具体的施策にはこの5年間で成果のあったものや今後継続して取り組みたいことなどが記載されていますので、それらを子ども像の重点だけに置き換えると、前回のプログラムとの比較がしにくくなると考えて、再度とりあげたうえで新たに加えた項目もあります。

【委 員】 そうなると5基本方向に問題行動に対する考え方がないのに、6具体的施策の推進に掲げられるのは内容として不自然であるように思えます。

【教育長】 今回の策定に当たっては、子どもの活動を中心にまとめ、前の計画は体制を含め推進の在り方などをまとめているため、策定に対する考え方がそれぞれ違うものです。そのため、担当者が今回、具体的な推進体制も必要だと考えたことから、付け加えて再提案となったようですが、子ども像と連携させるとどうしても子どもの活動に結びついたものとなってしまいます。計画策定の中心には、町の総合計画、そして教育振興計画がくるべきだろうが、まだ、教育振興計画は策定されて

いないため内容が混乱しているようです。まずは、社会教育としてはこのプログラム以外に策定されている計画書等を踏まえて策定したいと考えています。今後、教育振興計画ができたら、それに合わせて見直すことも必要になるかと思えます。

**【事務局】** 委員の皆さんも、項目と内容がしっかりしていないと感じているかと思えます。例えば、問題行動への対処と体制というのは大切なことだけれども、子ども像にはこのような概念がないため、6 具体的施策の推進の中に手直しして後付けとして、今回加えたものになります。

**【教育長】** 今回は、子ども像と教育委員会の重点と視座に基づき、プログラムの考え方をまとめることとしたが若干分かりにくい内容となるものの、何とかまとめようとしたものです。

**【委員】** 5 基本方向については、子ども像をベースにしてまとめ、その中には詳細に内容が記載されているので、前回示したように基本方向と具体的施策の推進としてまとめることで十分だと思います。そのほか必要な事項があれば、年度の計画で進めることが出来ると思えます。

**【議長】** ほかにご意見はありませんか。

**【事務局】** 先ほどから話になっているように見直しのプログラムは、19 年策定の基本的方向の項目を子ども像の体系に合わせて並び替えたり、文言の一部を手直し、新たなまとめ方として整理をしています。しかし、子ども像で整理をしたため、今回取り込まれていない「問題行動への対処とその体制」の部分について、新たに基本方向の題目として追加して内容を整理するか、または今回の基本方向の題目の中に組み込んで整理していった方がよいか、皆さんの意見をいただきながら見直し案として整理したいと思えます。

**【教育長】** 計画に対しては基本的な考えが大事で、子ども像と重点と視座を含めながら、必要なものはなんなのかを決めてほしい。庄内町の子どもをどうしたいのかが基本的な考えとなるのではないかと思います。

**【議長】** 委員の皆さんご意見はありませんか。

**【委員】** 今回抜けたとなっている部分については、今回の見直し案の 5 基本的方向の中に組み込み 5 基本方向と具体的施策の推進としてまとめ、新たな項目を起こさなくても十分だと思います。

**【委員】** 問題行動の部分については、新しい項目として取り上げなくても地域ぐるみで行う青少年育成などに含めた形でまとめ、子どものことについては地域全体として関わりのあることなので別建てにしないで、子ども像の体系でまとめた方がよいのではないかと思います。

**【議長】** 見直し案の基本方向の中に組み入れる方がよいということですね。そのほかの皆さんはどうでしょうか。

**【委員】** 計画は、子ども自身からみた、子どもを基本にした内容であり、子ども像を中心にしたもので良いのではないのでしょうか。あまりにも対応策が多いと文章も多くなり分かりづらいと感じます。子どもは育てるだけでなく、育つためには大人の担当責任もあるので、計画だからといって具体的な内容だけにしなくても、計画全体で子どもの事を考えている内容になっていけばよいのではないかと思います。

- 【議長】 そのほかに、ご意見ありませんか。
- 【委員】 子どもが実社会でどう生きるか、自然の体験を通して育てることが大切なのではないかと。昔は子どもに手伝いをさせ学ばせるということもあったが、今は勉強することが主になって手伝いなどの経験はさせなくなってきていると感じている。子どもには、ある程度の体験させながら育てないといけないのではないかと思います。
- 【委員】 子どもたちには、町のことや歴史を知ることが大事なことで、机の上の勉強だけではなく、地域から学ぶことも必要だと思います。
- 【教育長】 学校では、外に出る活動が増えてきているし、庄内町では地域を学ぶための学習に力をいれています。このプログラムには、もっと地域に出る活動や自然体験が必要だというようなことを書き加えていくこともできます。
- 【委員】 育つ、育てるという体験や環境は、家庭でも地域でも作ってやらないと体験できないと思うし、自然に作られるようにはならないものだと思います。
- 【教育長】 学校と地域で関わりを持ちながら、子どもたちが体験できる活動をさせ、今進めているあいさつ運動などで子どもから地域を変えていこうという発想です。まずはそのような環境となる地域が作られるように、このプログラムで誘いながら、進めていければよいと考えます。
- 【議長】 中学生と小学生の関わりなども大切で、小学生は中学生を誇りに思い、見習うようになるようです。いろんな体験は、必要だと思います。
- 【事務局】 プログラム策定の方向は、子ども像の体系に基づいたものとし、5基本方向と具体的施策の推進としたうえで、皆さんのご意見を中に取り込んでいくということでしょうか。
- 【委員】 計画の内容が多いと分かりづらくなってくるので、6具合的施策の推進は無くてもよいのではないかと思います。計画には子どもだけに要求するのではなく、大人も変わることが大事だというようなことも取り入れてほしいと思います。中学生は部活動などで部落行事に参加することも難しいようですが、地域の行事などに参加できるように、大人も目をかけてほしいと思います。
- 【委員】 中学生は、時間的に地域の行事に出られないことが多く、少子化で中学生だけで担い得ない伝統芸能などを小学生に広げていくことは仕方ないことだと思います。出来るだけ地域と学校が連携し、つなげていく取り組みをするよう努力していきたいと思います。地域でなんとかしたいと考えていることなら、学校もできることを協力し、お互いあきらめないで取り組んでいけたらいいと思います。
- 【教育長】 学校も地域の要望に応じてあげたいが、部活動の事などもあって全てに対応はできないので、両方で折り合いをつけてやっていけるような学校と地域になってほしいと思います。
- 【委員】 子どもは、親や先生にはわがままな態度になることもあるが、地域の人言うことは聞くようです。地域の人との関わりの中で子どもは育つということもあります。
- 【委員】 机の上の勉強だけでなく、自分が体験したことは身に着きやすいと感じているので、庄内町としてこれからも引き継いでいってほしい農業や伝統芸能などの体験ができるように、大人が伝えたり導いていくことが必要だと思います。
- 【議長】 そのほかに、ご意見ありませんか。

【委員】 庄内町の山、月山登山も一度は体験させたいです。

【教育長】 月山登山とは言わなくとも、今回完成した八幡スポーツ公園などスポーツ施設でも出来ることも多くありますので活用し、親子で参加するなど、いかに子どもにいろいろな体験をさせるかが大切ではないかと考えます。子どもが少ないから、人が集まらないから駄目だということではなく、参加人数だけで評価はしないで、参加した人の意識も大事にしてほしいと思います。

【議長】 協議は、この程度で終わっていかがでしょうか。

【事務局】 計画は、5年で終わるものではなくて、その後も継続していくものですので、他の計画とも併せて進めていくこととなります。よろしくお願いします。

(2) 平成 25 年度山形県社会教育連絡協議会市町村研修等支援事業について

《資料により事務局説明》

【議長】 今年度から県連絡協議会で新たに取り組む事業で、市町村の希望によって研修支援をするものです。何か研修したいことはありませんか。

【委員】 社会教育委員は、どんなことをするのか、県内委員の活動をお聞きして、庄内町社会教育委員としての活動を考えることもいいかと思えます。

【教育長】 県の研究大会では、そのような研修はないのですか。

【事務局】 第 4 回山形県社会教育研究大会の開催要項も今回資料としてお渡ししていますが、分科会の中には社会教育委員に関することはないようです。

【議長】 そのほかになれば、研修内容は県内の社会教育委員の活動をお聞きすることとし、日程をいつにするかを決めたいと思います。皆さんいかがでしょうか。

【議長】 期日は 10 月 21 日（月）で決めて、内容とともに報告することとします。

(3) 第 4 回山形県社会教育研究大会の開催について

《資料により事務局説明》

【事務局】 出欠と希望分科会を 7 月 29 日までお知らせください。

(4) その他

・あいさつ運動の取り組みについて 《資料により説明》

【教育長】 商工会でこの取り組みをする前から、学校ではあいさつ運動に取り組んでいるため、教育委員会としてもこの運動に参加していくこととしました。学校では子どもたちの目指している姿にむけた授業として、1つは自立した子ども、自分の考え方を持てる子どもをつくる授業、2つ目は人とコミュニケーションの出来る子ども、学び合いのできる授業、3つ目は地域を含めて、人の役に立つ授業をする取り組みをしています。あいさつ運動は、学校の掲げる重点の一つでもあり、心も育つしあいさつをすることで学力もつくのではないかというくらいの効果があると思います。教育委員会としては、あいさつ一つであっても徹底して実行することでいろいろなところへの波及効果があると考えています。

【委員】 地区の子どもたちは、いつも元気にあいさつをしてくれるのでこちらも気持ちよくなります。

【教育長】 今後も地域の人役に立つ、喜んでもらえる活動をすすめていきたいと思えます。

【議長】 公民館などは、パソコンを見ていることが多いためか、あいさつはあまり元気がないように感じます。人にもよりますが、もっとあいさつの声かけをした方がいいの

ではないかと思えます。

【教育長】 自分はやっているというのは自己評価で、周りの人から受ける他者評価とは、ずれていることもあるので自分からあいさつをするように指導しているところです。

【議 長】 その他、委員の皆さんから何かありますか。なければこれで協議は終わります。

【事務局】 閉会

(16 : 25)